

## 課題研究英語発表会

数理科学研究Ⅱの課題研究英語発表会が、科学技術振興機構の関根康介氏をはじめとする 3 名の来賓の方々、岩手大学三陸水産研究センターの田中教幸氏をはじめ 20 名の助言者の方々のご列席のもと、5月18日(水)13:15~16:00に開催されました。発表された研究テーマは以下の通りです。

- ①"Biological Research on Mosquitoes"  
蚊の生態調査
- ②"Research of the Slime Mold Networks"  
粘菌によるネットワーク形成について
- ③"Reduction in Probability"  
確率における約分
- ④"Factorization of Cubic Equation"  
3次式の因数分解
- ⑤"Study about the Dye-sensitized Solar Cells"  
色素増感太陽電池の起電力に関する研究
- ⑥"Sound Waves and the Doppler Effect  
in Accelerated System"  
加速度系における正弦波とドップラー効果の理論と実験
- ⑦"Measurement of Persimmon Tannin  
Derived from Kasshi Persimmon"  
甲子柿由来の柿タンニンの抗菌作用について

どのグループも、4月27日(水)の課題研究英語プレゼ発表会で指摘された問題点に取り組み、スライドに工夫を凝らして、よりわかりやすい発表になっていました。実際、発表の出来具合を証明するかのようになり、『プレゼ発表会のときよりも200%よかった。』との講評をいただきました。

発表した3年5組の生徒の感想を一部紹介します。  
★英語を聞き取る力が前よりついたと思う。その場で英文を考えて、話す力も発表前より力がついたと思う。  
★発表ではしっかり質問に答えられたことがすごくうれしかった。実際に外国の方とコミュニケーションをとることの楽しさに改めて気づくことができた。

- ★英語に対する恐怖心が少なくなりました。
- ★英語でのコミュニケーションはもちろん、伝えたい内容を体系的に整理してまとめる事が要求されたプレゼンだったので、それらの能力を伸ばすことができたと思う。
- ★英語を聞き取る能力が上がった気がする。
- ★前回のプレゼ発表と同様に「分かりやすい発表」を心がけて、発音・アクセントやどの部分は重要かを目立たせることを意識した。しかし、質疑応答では質問内容は理解できても英語でどのように答えればよいか分からず、伝えたいことがうまく伝わらなかった。もっと英会話力を身につけなければいけないと思った。



発表者は緊張した表情でしたが、スライドだけでなく聴衆に対しても目を向けて発表していました。



2年5組理数科の生徒達が真剣な面持ちで発表を聞いています。すべてのグループに対して英語で質問していました。

# 「復興の科学」講演会

5月11日(水)、17日(火)、20日(金)に統合科学IIの授業の「復興の科学」の講演会を開催しました。今年度は「防災」をテーマに、岩手大学地域防災研究センターより講師を招き、講演を行いました。テーマは以下の通りです。

## ①「防災・復興地域づくりについて」

岩手大学農学部 広田 純一先生

## ②「自然災害とインフラストラクチャについて」

岩手大学理工学部 大西 弘志先生

## ③「災害文化・防災教育について」

岩手大学大学院連合農学研究科 比屋根哲先生  
地域行政、社会基盤(インフラストラクチャ)、教育など様々な側面から防災を考えることが出来ました。今後は講演会を通して興味を持った分野を深めるために、防災をテーマに各自で論文を作成します。

講演会での生徒の感想を一部紹介します。

### 第1回講義を聞いて…

★今回の講義で思ったことは、復興は建物や安全性を震災前に戻すということも大切だけど、地域の人たちのコミュニティを元通りにすることも重要だということが分かった。現在の大槌も今まで作ってきたコミュニティを壊したくない人がおり、仮設から引っ越さない人たちもいる。

★「コミュニティはつくるもの」という考えはその通りだなと感じた。実際に震災後、仮設住宅などに住んでみて、近所の人や隣に住む人など自分と違う地域から来た人は知らない人が多かったし、あいさつはしていても深く関わることはあまりなかった。だからこそ「コミュニティをつくる」という活動をもっと復興と平行していくべきだと思ったし、高校生の私たちも力になりたいと思った。



### 第2回講義を聞いて…

★今までは「どうやって津波を防ぐか」この防ぐということに固執してきたと思います。今回の講演は津波を防ぐのではなく、そこから人が逃げる仕組みを作ることでした。僕はそれに共感しました。釜石には大きな防波堤がありましたが、それも見事に崩れてしまいました。なのでやはり、人が逃げることで救われるシステムが必要だと思います。

★海外(特にアメリカ)ではインフラ整備に多くのお金をかけて行っているが、実際は多くの道路や橋の事故が起きているのが問題だった。日本でもアメリカほどではないが、公共の場での事故は多く起きている。海外の対策を参考にすることも大切だが、日本の地形や機構などの特徴も考えながら整備する必要もある。



### 第3回講義を聞いて…

★震災文化の継承としてよく見るのは、波が来たところに石碑を建て、ここまで波が来たことを示すものである。また、昭和の語り部たちが被災の体験を語る催しも開かれている。しかし、語り部は次第に数が減り、石碑も見ることがない。これからは自分たちが主流となり、次世代へ大震災の経験を語り継ぐ必要がある。

★今回の講義を受けて、今まさに一番自分にとって必要なことだと思った。in(気づき)、about(理解)を経て、for(行動)すること、特に for(行動)を起こすことが自分にとっても課題だなと思った。